

「自動運転を実現させるには？」 ー技術、マーケット、法律など、様々な視点から考えるー

■主催：ITS事業委員会

■担当部署：インダストリ・システム部 産業公共システムグループ

■参加者数：約250名

概要

最近の自動車には、追従走行やレーン認識、自動ブレーキなど、将来の自動運転につながる技術が搭載され始めています。

国際的にも、日欧米で自動運転に関する自動化のレベルが設定され、国際展示会では、各国の自動車メーカーが自社の自動運転技術をアピールする機会が急増しています。今後、自動運転を実現するために必要不可欠であるデータ（公共情報などのビッグデータ）の整備や公共データの一般公開などが実現すれば、自動運転の実現が加速していくものと予測されます。

しかし、技術的には現実味を帯びてきているものの、自動運転が果たして社会で受け入れられるのか、マーケットは成立するのか、法律や規制によって認められるのか、など、様々な課題や懸念が存在しています。このセミナーでは、技術的な観点に加え、欧米の自動運転の動向や、今後のマーケット動向など市場的な観点、また、国際法改正や欧米での規制緩和の動きなど、

法律的な観点で、自動運転の実現に向けた課題の解決策を探る内容で実施しました。

昨年に引き続き、現在、一番ホットな話題である、「自動運転」というテーマに多くの方に関心を持っていただき、当日は250名を超える方に聴講いただき、今後の自動運転に関する技術やビジネス動向を考える気づきを得られるセミナーとなりました。



プログラム

○「クルマの進化とこれからのモビリティ社会」

日産自動車(株) 企画・先行技術開発本部 技術企画部 エキスパートリーダー 二見 徹 氏

○「自動運転機能開発をトリガーにした車載機器産業の構造変化」

(株)野村総合研究所 グローバル製造業コンサルティング部 エレクトロニクス産業グループ
グループマネージャー 晝間 敏慎 氏

○「自動運転に向けた法的課題、とくに法的責任とその限定の可能性」

明治大学 法科大学院 教授 中山 幸二 氏

○パネルディスカッション「自動運転のあるべき姿と、実現のための課題」

モデレータ：オートインサイト 代表/技術ジャーナリスト 鶴原 吉郎 氏

パネラー：上記登壇者

(株)日立コンサルティング 社会イノベーション&インキュベーション本部
シニアマネージャー 平田 和義 氏